

東北 VALUE SIGHT 秋田



有限会社佐藤養助商店 代表取締役
佐藤 正明 (さとう・まさあき)

1987年3月 秋田市立秋田商業高等学校 卒業
1988年4月 有限会社佐藤養助商店 入社
1996年6月 有限会社佐藤養助商店 専務取締役 就任
2004年6月 有限会社佐藤養助商店 代表取締役 就任
湯沢青年会議所理事長、秋田県商工会青年部連合会会長、
全国商工会青年部連合会副会長などを歴任し、現在は秋
田県稲庭うどん協同組合理事長、全国まるごとうどんエ
キスポ実行委員長を務めるなど、全国ブランドとしての
稲庭うどんの普及と、うどんを通じた地域連携・活性化
に力を入れている。
〈全国まるごとうどんエキスポHP〉 <http://udonexpo.net/>

「東の稲庭うどん 西の讃岐うどん（香川県）」とい
われるように、稲庭うどんは秋田県はもちろん、東日
本をも代表する郷土料理である。この“全国区”とも
いえる食材を地域の活性化に生かせないものだろうか。
創業150年以上の伝統を誇る稲庭うどん老舗企業が中
心となって、「全国まるごとうどんエキスポ」という
大規模イベントに挑戦した。

「稲庭うどん」のブランド力を最大限活かした イベントで秋田湯沢を全国へ発信!!

「あるもの活かし」の発想で生まれた 「全国まるごとうどんEXPO in 秋田・湯沢」

平成22年1月に北都銀行が主催した、「湯沢市・北
都いきいきまちづくり懇話会」に市内の行政、銀行、
商工関係者、高校生が集まり、地域を元気づけるた
めに何ができるのかを話し合った。

当初の会合では「少子高齢化が進んで街には元気
がない」、「地域資源が十分活かしきれておらず、交
流人口や外貨を呼ばない」、「観光資源がありすぎ
て、何をどうPRしてよいかわからない」など、な
いづくしのないものねだりの意見が多数出され、
会全体のネガティブな雰囲気から脱却しなければと
いう思いがあった。

そこで私は、湯沢雄勝地域に「今あるもの」を上
手に組み合わせることにより、今までにないPRイベ
ントができるのではないかと発想の転換を投げかけ
た。その結果、地域のブランドリーダーである“稲
庭うどん”を牽引役としたイベントならば、県内外
から集客を見込めるし、そのイベントにおいて、湯
沢雄勝地域の日本酒、漆器などの物産や、温泉をは
じめ古くからの祭りなどの観光資源を売り込めれば、
地域全体を元気にすることができるのではないだろ
うか、という発想にたどり着いた。

「全国まるごとうどんEXPO in 秋田・湯沢」 手探りの第1回目・手ごたえありの第2回目

イベント開催に向け、平成23年1月に実行委員会

を立ち上げた。メンバーは行政をはじめ、地元商店
街、秋田県稲庭うどん協同組合、果ては地元高校の
先生や生徒まで、官民一体、老若男女の大所帯と
なった。

それまで、地域の祭りやイベントは一部の人々だ
けが企画運営にかかわって行われることが往々にし
てあったが、市全体が一体となって取組もうとした
イベントは、平成17年に4市町村が合併し新湯沢市
となってからは初めてのことであり、各団体との調
整の難しさも含め不安だらけのスタートだった。

実行委員会開催のたびに、「このイベントは湯沢雄
勝地域の資源を全国にPRするだけでなく、自分たち
自身においても湯沢雄勝の魅力を見出すイベント
である」ことを訴え続け、開催に向け少しずつで
はあるが、メンバーの気持ちが一つになるよう努め
た。

ギリギリまで、全国のご当地うどん業者との出展
交渉や設備対応に追われながらも、なんとかこぎ付
けた第1回目（平成23年10月1日～2日）は、来場
者の落込みを懸念する声もあったが、会場となった
中心市街地の4つの商店街が約7万人の来場者で埋
め尽くされ、経済波及効果は7億円（フィデア総研
調べ）の結果となった。

ただ、チケットが売り切れてうどんを食べられな
かったり、駐車場の受入台数が足りず、引き返した
来場者もいたりするなど、交流人口の拡大を目指し

たイベントとしては基礎的な部分で多くの課題を残
してしまっていた。

第2回目（平成24年9月29日～30日）は、第1回
目の反省を踏まえ、会場までのアクセス方法の改善
や駐車場の確保、ご当地うどん参加団体の拡充（第
1回目9団体、第2回目30団体）などを行った。

商店街全体にうどんのブースを分散させ、また、
会場のいたる所でライブを行うなど、来場者を飽き
させないよう工夫を凝らしたことに加え、第1回、
第2回においてそれぞれ延べ200名を超える高校生
ボランティアによる「おもてなし」により、顧客満
足度を高めることが出来たと確信している。

2回目も約7万人の来場者で、経済波及効果は7.2
億円（フィデア総研調べ）と1回目を上回った。



2012年9月に湯沢市で開かれた「第2回全国まるごとうどんエキスポ」の様子。県内外から大勢の来客でにぎわった。

やはり、課題は尽きないもので、第3回目の開催
に向け、改善を重ねていきたいと思っている。

「うどんEXPO」を持続可能なものとし、 地域の元気を取り戻すために

このイベントの開催目的は、以下の通り3つある。

①【地元経済への波及効果】湯沢市中心市街地、
地元商店街を中心に交流人口を増やし、湯沢雄勝地
域の特産や温泉等の地域資源を発信しながら、経済
的な活力増進を図る。

②【うどん文化の創造と活性化】ご当地グルメ
ブームを背景に、全国各地のご当地うどんが一堂に
会し、新たな食文化の発見と感動を生み出し、うど
ん産業の活性化を図る。

③【人的交流の更なる活性化】湯沢市民と地元事
業者が一体となって創り上げるイベントとすること
で、地域経済の活性化への継続的な機運・
活動につなげる。

このイベントを単なる一過性のモノに
しないためには、特に①・③の目的を市民
全体で共有することが肝要であると考え
る。

商店街に交通規制をかけ、イベント会場
を造り上げるといったコスト面での苦勞
もあるが、2回の「うどんEXPO」を通じ
て、『湯沢雄勝地域をまだまだPRできる』
という手ごたえを感じており、このイベ
ントを進化させていきたいと念じている。